

2024

9

SEP.

TACHIKAWA HOSPITAL



NEWS NO. 82

2▶

看護部紹介

8▶

内科紹介

立川病院 だより



看護部紹介



看護部長
菱沼 啓子

いつも患者さんのご紹介、お受入れをいただきありがとうございます。
看護部では、患者さんの心身の健康と回復を最優先に考えたケアを提供しています。7月からは面会制限を緩和し、ご家族や地域の支援者の方々に患者さんのベッドサイドにお越しいただきやすくなりました。

診療報酬改定でも患者さんの意思決定支援が重視されています。治療のスタートである外来での病状説明同席の体制を整え、看護師が関わるタイミングと密度を高めるよう取り組んでいます。そして患者支援センターでは、患者さんが納得して医療を受けられるよう、具体的な説明を心がけています。総合病院として多様な領域に対応できる強みを生かし、患者さんがいつでも安心して治療や療養の場の移行ができるよう多職種チームが関わり、地域になが看護を大切にしています。

私たちは「住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を送ることができる」というビジョンを掲げています。今号では、立川病院なら任せて安心、と看護でも選んでいただけるよう各部署やチームの実践をご紹介します。地域の皆さまとの密な連携を通じて、継続的な支援体制を整え、患者さんのより良い療養生活をサポートできる病院を目指してまいります。

部署紹介

ICU・HCU・救急病棟

刻々と変わる状況の中、苦痛や不安が最小限となる看護を医師・救命士と連携し実践しています。危機状態の患者さん・ご家族が、短期間に難しい意思決定を求められる場面も多いため、丁寧に寄り添い続けることを大切にしています。毎朝多職種がカンファレンスに参加し早期の介入支援につなげています。

周産期

8S（産科）

NICU6床を有する地域周産期総合医療センターとして、緊急搬送受入れを充実させています。病棟スタッフが助産師外来から関わり、安全・安心なお産のほか、行政を含む多機関と緊密につながることによる健やかな育児を支援しています。立ち合い出産や産後ケアなど多様なニーズも柔軟に対応します。



8N（NICU・小児科ほか）

個室が増え、お預かりの入院だけでなく、ご家族も一緒に過ごせる療養環境が整いました。お子さんに合わせた退院指導を心がけ、夜間・休日の急な入院でも常駐する医師と連携し安全・安心の確保に努めています。



5S（女性病棟：産婦人科・乳腺外科・血管外科ほか）

複数診療科の女性患者さんを女性スタッフが担当する病棟です。様々なライフステージにある患者さんの心に寄り添い、希望に沿った治療や療養場所を選択できるよう、退院後の生活を一緒に考える時間を大切にした看護を提供しています。



6N（消化器内科・腎臓内科・糖尿病・内分泌代謝内科）

透析センターも担当しています。慢性疾患を持ちながらもその人らしく病気と共存しながら生きられるよう、予防から治療、終末期まで患者さん・ご家族に寄り添い、対話を大切にしたセルフケア支援、意思決定支援が強みの病棟です。

チーム活動

ハートチーム（心疾患対応）

心不全療養指導士が退院後の生活を見据え、個々の患者さんが習慣や楽しみを継続できることを大切にした指導内容を検討・介入しています。再入院患者さんやご家族からは「手帳読んでたよ。」「書いているよ。」との言葉も聞かれ、セルフモニタリングの必要性を患者さん自身が理解できることで早期受診につながり始めています。



NST（栄養サポートチーム）

「食事」は、私たちが生きる上で栄養素の確保以外にも、生きる喜びや生きがいなど大切な意味を持ちます。「食」は回復の基本をモットーに、摂食嚥下機能を維持し、体の中から健康にできるよう専門チームでサポートさせていただきます。



TAPS（術後疼痛管理チーム）

患者さんの周術期一番の不安は「術後のいたみ」です。手術室看護師が外来から関わり、術後疼痛管理チームとして疼痛や悪心・嘔吐の軽減に努め、術前から術後までを総合的にサポートしています。

認知症ケアチーム

認知症および認知機能低下のある患者さんが安全に治療を受け、安心して療養できるためのケアを提供し、認知症症状の進行予防やBPSD悪化予防を図ります。住み慣れた場所に帰ることができることを目的に多職種で活動しています。

災害対応

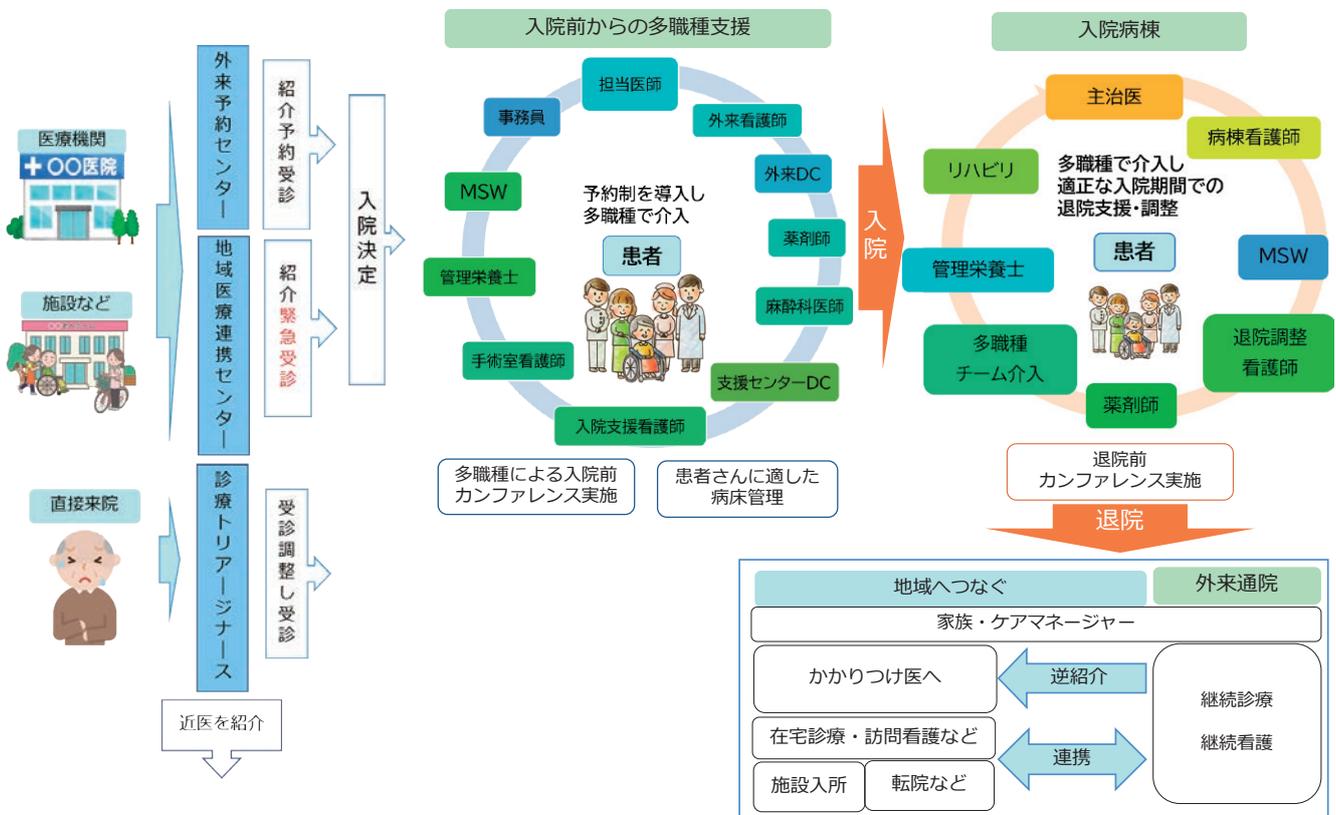
当院は東京都災害拠点病院です。災害発生時には小児周産期リエゾンや第二種感染症指定病院、北多摩西部保健医療圏で唯一の精神病床の機能も存分に発揮すべく、日頃から災害対応への意識を高め看護実践しています。

地域連携

患者さんの紹介受診から入院・退院後の流れ

入退院支援では、患者さんに退院後の生活のイメージをしていただきながら安心して治療・療養生活を送れることを目指し、多職種で関わっています。入院期間は一層短くなっており、外来の段階からその方の疾患の受容段階を確認し、意思決定支援をする心理的サポートがとても重要だと考えています。

予測される退院困難な要因に早期対応できるように入院前カンファレンスを行っています。地域支援者にご相談し、入院時初回の介護連携指導をあらかじめ予定する取組も始めました。地域の方々との退院前カンファレンス、患者さんと自宅の環境を確認する退院前訪問をこれまで以上に実施し、患者さんの安心につなげていきます。患者さんのQOLを第一に考え、住み慣れた場所で療養生活を送ることができるよう、地域の方々との連携強化に努めてまいります。



患者さんの安心のために。訪問看護師さんからご意見を頂きました

Q1: がん患者さんへの病名・病状の告知の有無やADLの情報が、診療情報提供書・看護サマリーから読み取れないことがあります。

A1: 私たちもがん告知や、その方の受容段階などの情報は重要だと考えています。入院前から心理的サポートを行い、看護サマリーやADL表の内容を充実させ、地域で支えて下さる皆さまとの退院前カンファレンス等も通じて連携がはかれるよう努めてまいります。現在、看護サマリーと一緒にADL表をお渡しできるよう調整しております。また、リハビリの見学も可能です。情報不足の際はお手数ですがご連絡ください。病棟看護師や退院調整看護師が直接お話しさせていただきます。

Q2：立川病院で行っている処置を継続することが難しいことがあります。
患者さん・ご家族へ退院後変更になる可能性があるかと伝えてほしいです。

A2：入院中から退院後も継続できる処置を患者さん・ご家族へ指導させていただきます。退院前カンファレンスなどを通して、当院で実施している処置を確認して頂き、継続できる処置についてアドバイスを頂けると幸いです。

*ご不明な点がございましたら、地域医療連携センターにお問い合わせください。

🍌🍌🍌 専門看護師・認定看護師（リソースナース会）活動紹介 🍌🍌🍌

私たちは、各分野の専門知識と技術を活かし、患者さんやご家族に信頼される質の高い看護を提供することを目指して、日々取り組んでいます。リソースナース会では、健康フェアの開催や地域イベントへの参加など、地域の健康促進にも積極的に関わっています。今後は、皆さまの職場にお伺いし、出張学習会を通じて看護の質向上と地域貢献を目指していきたいと考えています。内容や開催時間については、ご要望に柔軟に対応いたします。学習会に限らず、日常のお困りごとがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

《健康フェアの様子》



専門看護師

	地域の皆さまへ	出張学習会 テーマ
精神看護	精神疾患に特化せず、患者さんの身体疾患に伴う精神的苦痛に寄り添い、その人らしさを保ち生活することを支援しています。患者さんが身体だけでなく、こころの健康も大切にできるよう多職種間の調整や倫理的調整も行います。	○メンタルヘルス ○ストレスマネジメント ○身体の病気になったときのこころの不調とケア
がん看護	がんになっても患者さんやご家族の方々が自分の人生を自分らしく自分の足で歩んでいけるように、地域の皆さまとつながりながら生活を支えていきたいと思っています。	○がんとは何か ○がん治療の総論 ○意思決定支援 ○症状のセルフマネジメント支援

認定看護師

	地域の皆さまへ	出張学習会 テーマ
皮膚・排泄ケア	患者さんがその人らしい人生を生き抜くことができるよう正常に排泄すること、健康な皮膚状態を保つことを支援しています。患者さんのQOL維持・向上のためのセルフケア支援を行う仲間として共に邁進していきたいです。	○皮膚障害の予防・管理 ○創傷管理 ○排泄ケア ○ストーマケア
認知症看護	認知症によって自らのニーズや思いを訴えられない患者さんが、不安なく穏やかに過ごせるよう地域の皆さまと連携し生活を支えていきたいです。認知症アウトリーチチームやもの忘れ外来の窓口対応も行っています。	○認知症の中核症状と行動心理症状 ○認知症の人への基本的ケア ○認知症の人へのコミュニケーション ○認知症とせん妄
感染管理	皆さまの感染対策に関するお困りごとについて、ご施設に合った解決方法を一緒に考えます。	○標準予防策 (手指衛生の適切なタイミング、個人防護具の着脱方法) ○経路別感染対策 ○基本的な感染対策
摂食嚥下障害看護	加齢による身体機能の変化に伴い、食べる機能も低下していきます。病気と向き合い生活をしていく中でも、食べる楽しみを失うことなく安全に経口摂取が行えるようサポートしています。	○口腔ケア方法 ○食事介助の方法 ○おいしく食べるための嚥下体操の方法 ○とろみ剤のつけ方
がん化学療法看護	抗がん剤治療を受ける患者さんが、治療を安全に、安心して受けることができるように、日常生活と治療を両立できるようなセルフケアを含めた副作用対策と精神的支援を行っています。	○皮膚障害 ○末梢神経障害 ○がんの薬物療法
がん放射線療法看護	患者さんに寄り添い、有害事象ケアや治療効果を高められるよう多職種と連携しています。また、セルフケア能力など、患者さん自身で困難を乗り越える力を養い、治療後もその方らしく過ごせるように支援します。	○がんについて ○放射線治療 ○放射線治療の有害事象ケア
がん性疼痛看護	がんの痛みはその人らしい生き方を阻害する要因になります。全人的苦痛の視点で痛みを軽減させていくことがQOLの向上につながります。患者さんと痛みとのつきあい方を一緒に考え、日常生活が送れるように支援しています。	○がんの痛みのアセスメント ○トータルペイン ○オピオイドの使用 ○痛みの評価

	地域の皆さまへ	出張学習会 テーマ
緩和ケア	緩和ケアは終末期だけのものではありません。誰もが自分らしく生ききるためのサポートです。患者さんの思いを実現するために、院内外の様々な職種の方々と連携していきたいと考えています。	○緩和ケアとは ○終末期の看護
腎不全看護	地域で生活している患者さんの中にも高血圧や慢性腎臓病、すでに透析を受けている患者さんも多くいらっしゃると思います。困難事解決や新しい知識を習得したいと希望される方がいらっしゃいましたら一緒に考えていきたいと思っています。	○腹膜透析を受ける患者のケア ○血液透析を受ける患者のケア ○慢性腎臓病保存期の患者のケア
新生児集中ケア	NICUでは新生児の成長と発達を促し、より良い親子関係が築けるよう、地域と連携を図り、1日も早くご家族とともに過ごせるようにサポートしています。新生児に関することや日々のケアについてお気軽にご相談ください。	○新生児・低出生体重児看護 ○ハイリスク新生児をもつ家族への看護

下記にご連絡ください。内容や担当者との日程などの調整をさせていただきます。

【連絡先】 電話：042-523-3131（代表）
 メール：k.kito@tachikawa-hosp.gr.jp
 立川病院 看護部次長 伊東 和美

患者さんの笑顔のために、
 どうぞ私たちを活用してください！



「ひとつの内科」

平素より地域医療に関して多大なるご支援を頂き誠にありがとうございます。地域医療構想・働き方改革・医師偏在対策の三位一体改革が推進されていますが、現行の医療体制維持や病院経営の点では厳しい現実が続いています。

このような状況下にあっても、立川病院内科は「時代の変化の中で地域に必要とされる存在であり続ける」ことを目標にしています。そのためにも①急性期病院としての地域貢献、②臨床研修医・内科専攻医の人材育成を2つの柱として、診療レベルのみならず医療安全や働き方改革、病院経営等全ての面で質を向上させる努力を続けています。

循環器内科、血液内科、消化器内科、糖尿病・内分泌代謝内科、腎臓内科、脳神経内科、呼吸器内科（膠原病・リウマチ内科は外来のみ）を取り揃えています。風通しの良い「ひとつの内科」として地域貢献できるよう日々診療を行っています。また「ひとつの内科」として断らない病院を目指して取り組んでいます。

スタッフが同じ目標に向かい成長していくことが地域貢献に直結すると確信しています。まだまだ至らない点が多々ありますが、内科全体で一丸となって精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

診療部長・内科統括部長 黄 英文

各診療科からのコメント

【循環器内科】 影山智己

東京CCUネットワークに参画しています。急性心筋梗塞、急性心不全など急性期疾患診療体制を整えています。

また総合病院の循環器内科として患者さんを支え、地域のチーム医療の担い手として、連携して寄り添って患者さんを診る医療連携体制を整えています。



循環器内科集合写真

【血液内科】 外山高朗

血液内科では分子標的薬や抗体薬を始めとした最新の治療を積極的に取り入れ、地域の患者さんに提供すべく診療体制を整えているところです。多摩地域において血液疾患を診療できる医療機関は非常に限られており、さらなる受け入れ体制の充実に向けて取り組みを進めて参ります。



血液内科集合写真

【消化器内科】 古宮憲一

当科は現在6人体制で日々の診療を行っています。それぞれの役割分担のようなものがあり、上下部内視鏡治療に関しては山根医師、胆膵疾患は玉川医師、肝臓疾患は近藤医師、論文等の学術担当は鍛冶場医師、そして専攻医の影山医師、調整役の古宮とバランスのとれた布陣です。地域の皆さまのご期待に応えられるように日々精進しております。安心して、どんどんご依頼下さい。よろしくお願いいたします。



消化器内科集合写真

【糖尿病・内分泌代謝内科】 矢島 賢

糖尿病教育入院、周術期管理、病診連携に力をいれています。



糖尿病・内分泌代謝内科集合写真

【腎臓内科】 二木功治

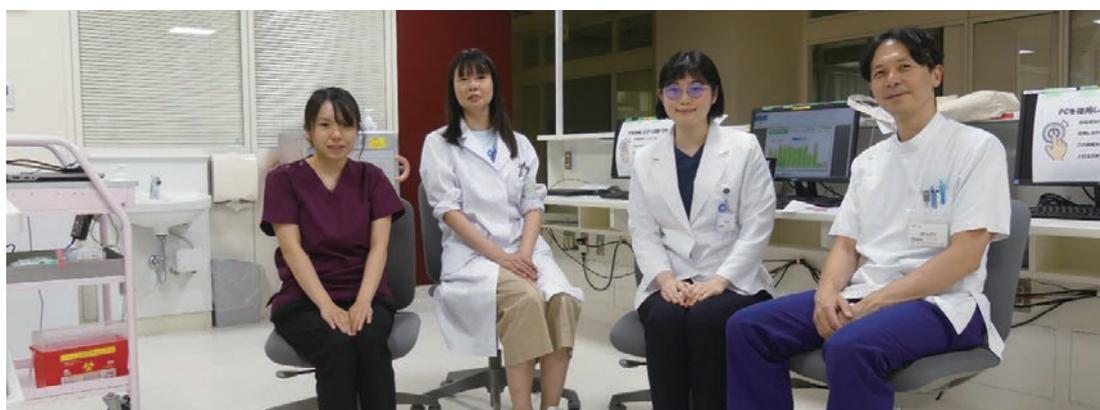
腎臓内科では、地域連携を重視し診療を行っております。腎疾患診断確定のための腎生検を積極的に実施し、病理診断科とともに腎病理を検討しています。腎臓内科外来では、透析看護認定看護師を中心として「療法選択外来」を実施し、腎代替療法の療法選択を充実させております。腎臓内科では透析センターの運営を行っており、腎不全に対する血液透析に限らず、全ての科に必要とされる各種血液浄化療法を腎臓内科で扱っております。血液透析用内シャントの管理にも注力しております。あわせて腹膜透析の導入、管理も積極的に実施しております。引き続き立川市ならびに周辺地域における腎臓診療の一翼を担うべく、立川病院腎臓内科として努力していく所存であります。



腎臓内科集合写真

【脳神経内科】 服部英典

常勤の服部英典、久住呂友紀に加えて、後期研修医の村松茉莉奈の三人で診療に取り組んでいます。北多摩西部保健医療圏の東京都委託事業として、東京都地域拠点型認知症疾患医療センターと東京都脳卒中医療連携推進協議会に取り組むとともに、立川市に委託されている認知症初期集中支援チーム員会議に参加協力しています。入院診療については、脳梗塞・脳出血・めまい・パーキンソン病などのクリニカルパス運用を行い、医療水準の向上と入院期間の短縮に努めています。また、外来診療ではアルツハイマー病に対する画期的治療薬であるレカネマブ治療を開始し、すでに投与されている患者さんは45名以上になっています。令和6年度は新たに認知症の治験と多発性硬化症の治験が開始される予定です。引き続き、診療・教育・学術活動に取り組んでいきますのでどうぞよろしくお願い致します。



脳神経内科集合写真

【呼吸器内科】黄 英文

悪性腫瘍や呼吸器感染症、びまん性肺疾患、アレルギー性疾患、慢性閉塞性肺疾患、睡眠時無呼吸症候群など呼吸器に関連する疾患全般に対応しています。地域連携や救急医療を充実させることにより地域の患者さんや医療施設の先生方から信頼を得られるよう努めて参ります。ご紹介頂く患者さんが速やかに受診できるよう対応していますが、緊急性が高い場合には地域医療連携センターまでご連絡下さい。

また間質性肺炎外来や気管支鏡検査に精力的に取り組んでいますので、対象になる患者さんがいらっしゃいましたらご相談いただければ幸いです。



呼吸器内科集合写真



土曜日外来診療休診のお知らせ

日頃より当院の運営にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

現在、当院では第2・4土曜日午前に外来診療を行っておりますが2025年4月より全ての土曜日を休診日とします。

なお、救急診療につきましては従前どおり時間外・休診日に関わらず24時間体制で対応します。

働き方改革関連法施行に伴い、医療従事者をはじめとした全職員にとって最適な労働環境のもと、より安全で質の高い医療を患者さんに提供するため決定しました。

地域の医療機関および患者さんには、ご不便をおかけすることとなりますが、引き続き皆さまに信頼される病院づくりを目指して参りますので、何卒ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

土曜日休診：2025年4月より

2024年5月1日

立川病院 病院長



ご要望などございましたら、地域医療連携センターまで
ご連絡をお願いいたします。

発行：令和6年9月30日（年6回）
発行者：立川病院地域医療連携センター
編集者：片井均、風間友子

国家公務員共済組合連合会 立川病院

〒190-8531 東京都立川市錦町4-2-22

TEL：042-523-3131 FAX：042-522-5784

ホームページアドレス：<http://www.tachikawa-hosp.gr.jp/index.html>

地域医療連携センター

TEL：042-524-2438

FAX：042-523-3160